

令和5年度 第1回 伊豆市総合教育会議 議事録

日 時 令和5年4月25日（火）16時00分～17時15分
場 所 伊豆市役所本庁2F 委員会室
出席者 菊地豊市長、梅原賢治教育長、佐藤雅彦教育委員、西尾真澄教育委員、
梅原一仁教育委員、猪股園恵教育委員
市長部局) 伊郷副市長、新聞総合政策部長、滝川総務部長、栗山健康福祉部長、
井上産業部長、大村建設部長、
教 育 部) 小塚教育部長、室野学校教育統括監、鈴木社会教育課長、
坪内図書館長、塩谷学校教育課長、鈴森学校教育課主幹、
中村社会教育課主査

- 議 題
- (1) 東アジア文化都市事業について
 - ・ 美伊豆との共催事業
 - ・ 伊豆市事業
 - (2) 図書館のあり方について
 - ・ 図書館経営構想について
 - (3) 教育に関するコロナ対応について
 - ・ 令和4年度の児童、生徒、教員の感染状況報告
 - ・ 令和5年4月1日改訂の感染症対策の説明
 - (4) その他（新中学校に関する報告）

1 開会

<教育部>

本日の総合教育会議の目的を改めて説明させていただく。総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて設置しており、会議の目的としては、市長と教育委員が十分意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることとされている。会議は、市長、教育長、教育委員で構成され、市長部局と教育委員会という執行機関同士の協議と調整の場となっている。この会議での一般的な協議の内容は首長が定めるとされている。教育大綱の策定に関するその他、教育を行うための諸条件の整備、学術及び文化の振興を図るために、重点的に講ずべき施策に関することなどがある。続いて会議の成立について報告する。本会議は、伊豆市総合教育会議規則第2条第2項の規定に基づき、構成員6名の過半数以上の出席により会議が成立していることを報告する。法律により、議事録を公表することと定められているため、議事録を

作成し、後日ホームページで公開することを了承いただきたい。ただいまから、令和5年度第1回総合教育会議を開催する。会議規則第3条により、議長及び議事の整理は市長が行うことになっているため、挨拶と議事の進行を市長にお願いする。

2 あいさつ

<市長>

市長と議会をよく地方自治の両輪だと言われているが、執行機関も、市長だけではなく、教育委員会、農業委員会、選挙管理委員会、監査委員など、それぞれ独立して市長の権限外で動いている。一方、地方自治法の中には、市長はその他の執行機関も含めて統括し、相互に調整させるという義務がある。しかし、特に教育部門は、市長が口を挟んではいけないような強い風潮が長く続いてきた。その後、安倍内閣の時に、市長が教育長に責任を持たせ、教育長が教育委員会の長となるよう体制が変わってきた。これは個人である知事や市長の言うことを聞かせるというような意図はなく、元々そのような責任があったということである。私は伊豆市の行政の長として、よりスムーズに民意を反映して施策を推し進めるための総合教育会議を市長部局と教育委員の皆さんとの合意形成の場として非常に重視している。ぜひ皆さんから様々な御意見を賜りたい。まず1点目の「東アジア文化都市事業について」、事務局から説明をお願いします。

3 議題

(1) 東アジア文化都市事業について

<教育部>

資料1により説明する。東アジア文化都市事業は2014年から、日本、中国、韓国で文化的な交流を目的に始まった。2022年8月に「東アジア文化都市2023」の開催都市として、静岡県が認定を受け、県では西部・中部・東部・伊豆の県内各地でコア事業を計画し、伊豆地域においては「伊豆文学祭（仮称）」を開催する予定である。伊豆地域では2日間にわたり、アクシスかつらぎにて「伊豆文学祭（文学サミット）」を開催し、10月14日（土）は県主催の文学サミット、15日（日）は午前には県主催の全国自治体会議、午後には美伊豆と伊豆市をはじめとする構成市町の主催により、「伊豆文学・故郷と旅」をテーマとしたフォーラムを日本ペンクラブの協力で実施する。事業費は560万円を見込んでいる。伊豆市事業は10月から12月にかけて集中的に開催を予定している。「伊豆文学まつり」及び「ピアノコンサート」が予定されている。予算は美伊豆事業及び伊豆市事業分を合わせて1,000万円を確保している。これらの事業については、東アジア文化都市2023静岡県地域連携プログラム補助金（補助率1/2）を申請する予定である。この予算の中で新規事業として「井上靖と中国（仮）」、「絵本ツーリズム」、「朗読会」を予定している。「絵本ツーリズム」については10月21日（土）に開催することが決定しており、児童文学作家の「くすのきしげのり」

氏の講演会を修善寺総合会館で行う予定である。なお、事業内容や出演者については変更となる可能性があるので、現時点の予定ということでご理解願いたい。

<市長>

少し補足をさせていただく。「東アジア文化都市事業」という県の事業は暦年事業のため今年の1月から12月までの実施となる。西部地区はオペラコンサート、中部地区は舞台芸術、東部地区は富士山世界文化遺産、伊豆地区は文学ということで既に県では決定している。昨年10月に開催された伊豆半島地域サミットの時に、私が文学サミットの開催を提言したところ、他の市町長から多くの賛成の声が挙がり決定した。ただし、予算額が非常に少ないため、美しい伊豆創造センターが実施するジオパークの事業として、文学のイベントを日本ペンクラブに委託する方向で協議をした。全体の事業費560万円のうち、半額の280万円は県の補助金が充てられる。残りの280万円については、伊豆市が文学の郷として中心になることが多いという理由から、伊豆半島ジオパーク構成の15市町で負担するのではなく、伊豆市が負担することとなった。イレギュラーな予算の出し方となるため、御了解をいただきたい。なお、このイベントは長泉町から南伊豆町まで共通するイベントになるため、井上靖や川端康成に限定するのではなく、伊豆半島全体が文学の郷であることをテーマに設定していく。この件について皆さんから意見はあるか。県及び美伊豆との連携事業である10月14日、15日の「伊豆文学祭」に関する事業について、イベントの事業費の補助残を伊豆市が負担することも含めて了解いただけるか。

【一同異議なしにより承認される】

<市長>

伊豆市の独自事業について、私から確認したい。「絵本ツーリズム」については、前の週に行われる「伊豆文学祭（文学サミット）」とセットでの実施ではなく、別の日にした理由は何か。

<教育部>

日程調整はしたが、同日の実施は難しく、この日程となった。

<市長>

承知した。それから「井上靖と中国（敦煌）」の事業については、事業費として100万円をお願いしていたと思うが、資料では50万円になっている。

<教育部>

ここに記載している予算額はまだ、たたき台のものである。必要な事業費は今後調整していく予定である。

<市長>

「井上靖と中国（敦煌）」については、伊豆市の事業のため、湯ヶ島地区で実施したいと思っている。伊豆市の文化事業として、川端康成と井上靖は外せない。また、井上靖は中国

についての作品を手掛けているため、中国をテーマとした企画をやらない手はない。以前、船原館を訪れた際、敦煌（中国西部の都市）出身の日本国籍を取得した人と話す機会があった。この方は、井上靖が初めて敦煌へ行った時に現地を案内した人だったとのことで、この方の協力を得ない手はないと思った。井上靖は約 1000 年前を舞台にした小説を、現地を見ることなく資料だけを参考に執筆している。改めて「敦煌」と「楼蘭」読んだが、本当に面白かった。現在、国の外交においては、中国と台湾が緊張状態にあるが、これは文化事業ということなので、中国に関する作品を扱った井上靖の小説を今一度、皆で学びたいと思う。今回は、中国敦煌出身の方に通訳をお願いし、私と敦煌市の市長がウェブ会談をするという他にはない事業を計画している。生まれ故郷は北海道の旭川市だが、伊豆市の湯ヶ島で育った井上靖の大作を今一度、読み返す機会になれば良いと思う。それから、（一社）修善寺 Cotori の代表理事の方が絵本の事業を色々展開してくれているので、今回の市の事業において、活躍していただこうと思っている。「朗読会」についてであるが、3月に実施した伊豆文学まつりの時の題材である「竹取物語」の朗読が地元の人たちによる尺八や三味線等の演奏とコラボをして非常に良い出来だったため、もう一度取り上げたいと思っている。私が以前、ジオパーク推進協議会の会長だった時に、だるま山レストハウスを会場とした竹取物語の企画をやりたいと思っていた。竹取物語の話の終盤で、かぐや姫が月に帰る時、かぐや姫との結婚が叶わなかった帝が不死の薬を燃やし、その煙が富士山に登っていくというシーンを、平安時代には、まだ富士山の火山活動が活発だったという歴史も踏まえて、富士山に見える「だるま山レストハウス」で実施するのがふさわしいと思っていた。3月に実施した朗読会は修善寺の檀信徒会館を会場とした公演であったが、非常に良い出来だったので、伊豆市の文化協会の皆さんとコラボレーションし、何とかもう一度開催したいと思う。県知事は、スポーツでも音楽でもよいので、文化事業として色々なことをやってほしいと言っており、伊豆市としては井上靖、絵本、朗読会を文学事業ということで実施する予定である。伊豆市独自の事業について、皆さんから意見や質問があれば、発言をお願いしたい。

【特になし】

<市長>

それでは2点目の「図書館の在り方について」を議題とする。今年度より、図書館長として、市内の4図書館を統括する職を設置したので、所信表明とやりたいことを併せて、説明をお願いしたい。

（2）図書館のあり方について

<教育部>

資料2を参照願いたい。図書館を通じて、様々な人がつながっていけるような図書館でありたいと考えている。主に修善寺図書館を見た印象として、強みと弱み、それぞれがあると

感じた。特徴として、市役所の福祉部門の庁舎となっている生きいきプラザに隣接しているため、小さな子を連れた親御さんの来訪が多い。また、俳句の会や大正琴の集まり等、生涯学習に取り組んでいる高齢者の人たちの図書館利用も多い。この特徴を強みと考えれば、これからの図書館サービスも福祉部門と上手に連携をしていくことにより、利用者を増やしていくことができるのではないかと考えている。弱みとしては、修善寺駅から少し距離が離れているため、電車を降りた後、ちょっと図書館に寄っていくということが難しい。施設的な面としては、図書館の建物内には会議室が視聴覚室一つしかなく、しかもこの部屋の管理は生きいきプラザの管轄であり、図書館の管轄ではない。図書館は月曜日が休館日のため、火曜日である本日は本の返却などで修善寺図書館については大変賑わっていた。中伊豆、天城、土肥の分館については利用者をどう増やすかが、今後の課題だと思っている。改善点として、小さな子供たちの利用促進のため、園児を図書館に連れてきてもらい、本の紹介や司書の読み聞かせ等の企画を行えば、子ども・保護者両方の利用が見込めるのではないか。高齢者対象としては、地域で行っている「ふれあいサロン」に司書が出向き、おはなし会やクリスマスツリーを一緒に制作すること等をもっと積極的に行っていきたい。現時点で11月、12月、来年2月の節分の頃の「ふれあいサロン」の予約も修善寺図書館には入っている。図書館は土日でも営業しているため、子どもと高齢者が一緒に参加できるイベントの企画・PRの強化をしていきたい。そのために、まずはSNSを開設したいということで、4月11日から伊豆市図書館のインスタグラムを開設した。図書館の状況、先日の「子ども読書の日」の取組なども掲載しているので、ぜひ皆様のフォローをお願いしたい。今後は、ツイッターの開設も予定しており、イベントや混み具合等のリアルタイムな情報をツイッターを使って発信できればと考えている。それから、今後の学校とのつながりとして、「学校支援パック」という学校からの要請に対応するフォーマットをつくり、図書館と学校の連携を強めていきたい。そして、夏休み期間中の子どもたちに宿題や自由研究の取り組みの場として、無料で涼しく過ごせる図書館や隣接するログハウスをPRしていきたい。なお、修善寺図書館のトイレは暖房便座ではないため、冬場の利用者の利便性や職員の職場環境にも配慮し、トイレの改修については、ぜひお願いしたい。ロータンドは改修が進み、憩いの場として、小さい子どもが遊んでいる姿が多く見られるようになり、とても良い光景だと思う。図書館の入り口付近にベンチやプランターの花をたくさん置いて、これからも憩いの場として休めるような場所を提供していきたい。資料の4ページで、『つながる図書館』という本の「公共図書館はいま、無料貸本屋から脱して…」という部分に触れているが、自分としては伊豆市の図書館はもっと「無料貸本屋」として充実してほしいと思っている。もっとたくさんの本を市民に借りてほしい。そして本を通じて、市民がつながっていければ良いと考えている。具体的な施策としては、資料3で第2次伊豆市総合計画との関連も含めて記載している。総合計画の重点目標1「少子化対策と次代を担う人材の育成」の政策2の「教育の充実」では政策目標に「子供たちが健やかに学び育つ教育環境の充実」とある。これに関する図書館の施策としては、①『学校と連携をした図書館経営』、そして重点目標4「まちの誇りの醸

成とブランド力の向上」の政策2の「地域の魅力の創造【伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成】」では「市民が誇りを持ち、人々を惹きつけ暮らしてみたいと思われる地域の実現」とあり、これに関しての図書館の施策としては、②『各世代別サービスの充実』、③『癒やしのある空間の醸成』という計3つを図書館の重点施策として考えている。自分の思いはたくさんあるが、どれもすぐに達成できるわけではない。ゆくゆくはこのようになればよいと考えている。先ほど述べた、駅から遠いということについては、修善寺駅や観光案内所に本の返却ボックスを置いて、簡単に本を返却できる場所を設けたい。週に1回、各分館へ配本に行くため、その途中で修善寺駅へ寄れば本の回収ができると考えている。また、来館困難者への配慮について、三島市でも例がある移動図書館は、何千万円という費用がかかってしまうが、それも実現ができれば良いと思う。その前の第一歩として、図書館の閉架書庫にある本を市内の商店や企業に50冊や100冊の単位で貸出して、たくさんの人に本を読んでもらうということができないかと考えている。商店などが貸し借りの管理をすることまでは難しいと思うが、まずは今よりも本に触れる機会をつくりたい。先日、図書館の近くにある介護施設の入所者の方々が、職員と一緒に図書館へ来た。歩くのも大変そうなお年寄りの方々が、読みたい本があるということで、レファレンス（本や資料の検索）をした。わざわざ介護施設のお年寄りが歩いて来ることを考えれば、例えば図書館の本を何冊かまとめて施設に貸し出すということもできるのではないかと。そして、同じく近くの病院に入院している方に対しても、暇なときに本を読んでもらえるように病院にも貸し出すことができるのではないかと考えている。それらを進めていけば、町の中に「1箱本棚」のような、小さい図書館がたくさんできるような形が生まれてくるのではないかと。本日、県の図書館研修があり、他市町の図書館長と話をすることができた。函南町では、「まちなかカフェ」というものを進めていく予定とのこと。下田市は市の図書館で眠っている蔵書を喫茶店などに貸し出し、市内の至る所で観光客や地元の人に本に親しんでもらおうと「下田まちじゅう図書館」という取組を4月からスタートしている。どのような状況なのかというのは今後、知りたいところである。伊豆市も本を通じて、市民がつながることを目標にしている。学習という面では、今まで朗読室を新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため使用禁止にしていたが、現在は使用可能とした。また、レーザーディスクやDVDを視聴できるスペースはあるが、これらの機器は故障して使えない状態である。この場所についても使えない機器は撤去し、自習スペースとして活用できるようにした。また、本年度の子供向けの事業として「ふじのくに地球環境史ミュージアム」から標本等を借りて、7月15日より「ミニ博物館」を開催する。その時に、図書館ナイトツアーと題し、夜の図書館探検を子供向けの企画として考えている。それから、図書館の玄関前の花についても、次に置くための花の苗を育てている最中である。植栽を手伝ってくれるお年寄りのボランティアの方々の確保も既にしてしている。その人たちを図書館に呼び込んで、ボランティアで仕事をしてもらいながら、さらに別のお年寄りを呼んでもらい、図書館の利用を進めていきたい。図書館は無料貸本屋と言ったが、図書館には伊豆市の文化を残しておく大事な役目があると思う。本や紙媒体は時間が経つに

つれ劣化する。できればそれをデジタルに変換して、伊豆市の方言なども録音して残しておいたほうが良いのではないかと考えており、文化の保存に向けても図書館として取り組みたいと考えている。伊豆の国市の図書館は、本日から、電子書籍を紙の本と同じように検索、貸出、返却、閲覧ができる「電子図書館」を開館するとのことである。著作権のお金はかかるが、この先、電子書籍が充実すれば、障害のある方でも文字を拡大したり、音声で読み上げたりと、様々な活用の仕方ができる。より多くの方が本に親しみ、図書館を利用することができる。県内では、菊川市でも来年度以降、電子書籍の導入を進めて行くと聞いている。伊豆市でも、そのような新しい取組にも対応しながら、人がつながる図書館にしていきたいと考えている。

<市長>

田舎の町で人が集まるところといえば、役場と病院と図書館だと思う。この3つが揃っているのに全然人が来ないとはどういうことなのか。普通なら近くにカフェができてもおかしくないと思う。それでも修善寺図書館はまだ、来館者がいるほうである。中伊豆図書館も天城図書館もあれだけ整備をしても人が来ない。新図書館長には、とにかく人が集まるような仕掛けをしてほしいというお願いをした。希少価値のある本は別だが、読んでいてちょっと汚してしまった、破れてしまった等なら新しいものを買えばよい。私は東京に出張する度に東京駅構内にあるカフェが併設されている書店を利用するが、他にもそのようなところはたくさんある。心地よい音楽が流れているような図書館をぜひ目指してほしいと市長として思う次第である。皆さんから意見があれば発言をお願いしたい。

<教育委員>

やはり、これらを進めていくには、予算が必要になってくると思う。要望のあったトイレの改修についても、市長部局の協力が必要である。教育部からの提案に対して、協力をしていただけるのかを伺いたい。

<市長部局>

教育部から説明いただいた提案については、これまでも図書館についての議論を進めてきた中で出ていた案もあり、その議論の過程で予算計上を見送ったものもある。しかし、今回改めて提案をいただいたので、協議を行い、必要なものについては予算をつけていきたいと考えている。

<市長>

投資的経費は必要である。このため、投資効果の小さい施設や老朽化して直せない施設は今まで以上に統廃合や用途廃止を進めていきたいと考えている。伊豆市はあまりにも老朽化施設が多い。効果の小さいものは市民に説明をし、廃止をするなどの整理が必要だと考える。将来に向けての投資的経費は一定量の確保をしていきたい。

<教育長>

ロータンドの活用についてであるが、花のプランターが並べてあり景観が良いと思った。現在お願いをしている方々だけではなく、例えば高級感のあるプランターを預けて花を育

てもらえる方を募集すれば、広く市民に周知できてよいのではないかと思った。また、これからの暑い時期は日よけ対策をしないと、せっかく整備した場所が活用できないのではないかと感じた。

<市長>

ビーチにあるような、パラソルとテーブルの設置は可能か。

<市長部局>

日よけについては、テントを購入してある。今後はビーチパラソルのような小さなテントを多数用意して使用してもらう形で対応したいと考えているので、その予算は確保する。

<教育長>

風で倒れないように、アンカーで固定できるようにしていただけると良いと思う。

<市長>

中伊豆図書館はテラスが設計されており、道路からも直接行けるようになっている。コーヒーでも飲みながら、心地よく本を読めるような環境にしてもらいたい。

<教育部>

先日、中伊豆図書館へ行った際、司書が「ここにテーブルと椅子があれば、中伊豆庁舎の職員が昼食を食べた後、自販機で缶コーヒー買って、椅子に座りながら雑誌を読んだりすることができるのではないか」と言っていた。あとは予算の問題だと思う。また、先日、本庁舎で働く職員が車の中で昼食をとる姿を見かけた。例えば図書館に休憩スペースのような部屋があれば、お昼を食べた後、図書館に来て休憩をすることもできるのではないかと思った。

<市長>

他に意見はあるか。特になければ一旦、議題を進めて、最後にもう1回振り返って意見を伺うことにする。3点目の「教育に関するコロナ対策について」は、あえて議題に入れてもらった。私は最近、公の場でもマスクを外して過ごしている。国の基準を超えて過度に自主規制する必要はないと思っている。マスクをつけないと不安になるのも分かるが、5月8日で新型コロナウイルスの感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行するため、子どもたちにも積極的にマスクを外すように呼びかけてほしいと考えている。この件について、教育部から説明をお願いします。

(3) 教育に関するコロナ対応について

<教育部>

現在の学校現場における状況について説明する。資料4を参照願いたい。4月1日に文部科学省が作成している「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」が改訂された。これに基づいて市の教育委員会では市内の学校に通知を出している。改訂後の基本的な考え方として、特にマスクに関しては「児童・生徒及び教職員について、マスクの着用を求めないことを基本とする」という文言がある。さらに「マスクの着用を希

望する等、個別の事情については、学校がマスクの着脱について強要することのないよう配慮し、個人の判断を尊重する」とされている。このため、現在学校では、強要をしない前提で場面に応じてマスクを着脱するよう指導をしている。

<教育長>

現場の状況としては、今もほとんどの児童生徒がマスクを着用している。マスクをつけた子がこの3年間でかなり増えたと思う。コロナ禍になる以前にもマスクを絶対に取りたくない子がいた。その子たちに対して、何度も外すように指導をしたが、「人前で顔を見せたくない」と言って外そうとしなかった。その後、コロナ禍になり、マスク着用が当たり前になってしまった。今後は学校としては、マスクの着用について、強要はせず、外した方が良くよと呼びかける方向で進めていく。ただし、強制はしないということである。

<市長>

市長として、子どもたちの精神的な自立や成長に対する思いとして、マスクの着用についての学校の対応について確認をさせていただいた。学校の方針として基本的には、マスクの着用を求めないということで、引き続き進めていきたい。それでは「その他」の新中学校に関する報告の説明をお願いしたい。

(4) その他（新中学校に関する報告）

<教育部>

新中学校の整備等に関する進捗状況について、資料5により説明する。工事に関しては、道路の埋設管の位置の確認、歩道の拡幅工事、調整池の工事を進めている。6月中旬頃に国の補助金の内示がある見込みのため、それ以降に建物本体の建築工事やグラウンドの外構工事等を進め、令和6年11月末に建物の完成を予定している。掘削等で転石や水が出る等により作業工程に支障がでる場合も想定されるが、定期的に工程の会議を行っているので、その中で進捗状況を確認し、随時対応をしていきたいと考えている。開校準備については、令和5年度は校章や制服のエンブレムの選定を行っていく。校歌については令和6年1月頃から作業を開始し、令和6年度内に決定をしていきたい。通学路に関しては、建設課と情報を共有しながら随時整備を進めていきたい。まずは短期計画として、グリーンベルトの設置や矢羽根の設置に着手し、中長期的なものに関しても検討を進め、対応していきたい。バスについては地域づくり課と連携し、まずはバス利用者のアンケートを取り、公共交通網形成計画の策定と連携しながら進めていく。今年度の後半には説明会を予定しており、その中で仮ダイヤとルートの設定等を考えている。令和6年度にはダイヤを確定する。備品に関しては、現在の3中学校の先生に新中学校で引き続き使用できる備品を令和5年度には購入するようお願いをしている。既存の備品について洗い出しを行い、今夏にも各教科担当の教員に各中学校を周っていただき、必要備品の選定と大きな備品の配置場所等も含めて検討していただく予定である。足りない備品については次年度の予算につけていきたい。また、今年度の後半には不用品の廃棄を考えている。部活については、現在、単独で活動している

チームと合同チームがあるが、令和5、6年度はそれぞれ変わらず活動してもらおう。部活動の地域移行に関しては、まずは指導者へのアンケートをとった後、地域移行の検討委員会を設置して協議を進める予定である。令和6年度の後半からは3中学校の部活動を合同で行い、令和7年度の開校時には部活動についても統合が完了している形にしていきたい。通学や部活動については関係各課と協議を行っている。今後も関係各課と協力しながら進めてまいりたい。

<市長>

新中学校の現状について、皆さんから質問があれば発言をお願いしたい。

<教育委員>

通学路の整備は課題の一つになると思う。冬場など、暗くなってから下校するとなった時間が少し心配である。縁石等に気づかずに転んで怪我をするというようなことが無いように、街灯は少し多めに設置する等の検討などもしていただけるとありがたい。

<教育長>

伊豆市以外の田方地区においては、今年から中学校の下校時刻を16時30分に設定している。部活動をやっても、この時間には下校となる。10、11月頃はその時間帯でも暗くなるため、街灯も必要かもしれないが、それ以外の時期は明るい時間に帰れる予定である。下校時刻のバスについても、函南町と伊豆の国市は16時30分の下校で生徒が問題なく帰れるのか試行中である。伊豆市は現在、もう少し遅い時間の下校となっているが、今後、他市町の様子も見ながら新中学校の下校時刻も16時30分にできるようバスの調整をお願いしたい。自転車通行帯を示す矢羽根については、道路に矢羽根を設置したからと言って自転車が安全に走行できるとは限らない。本当に危険と思われる箇所には何らかの対策を行っていただきたい。「自転車のまち」である伊豆市で通学に自転車を利用していることはアピールしていきたいので、安全に利用できるよう、危険な箇所の整備の強化をお願いしたい。

<市長>

通学での大きな課題は何か。

<教育部>

バスの運行が課題である。生徒が一定の時間帯にバスに乗り切れるか、各方面からバスが来ることになるので、新中学校への運行本数の確保ができるかという心配がある。修善寺駅から新中学校までの移動手段の方法が鍵になると思うので、今まで通りの計画のようにバスは全て新中学校まで行くのか、又は修善寺駅から新中学校まで自転車で行けるように駐輪場を設置するとか、その区間は徒歩で通学してもらおうのか等、色々な方法を検討している。

<市長>

保護者は通学の心配が大きい。学校を統合することで校舎は新しくなるが、通学については、ほとんどの生徒にメリットがない。なるべく早く整理をしてほしいと思う。教育委員又は市長部局から、新中学校について他に何か意見等はあるか。特になければ、私から確認したいことがある。中伊豆中学校と天城中学校の跡地利用は現時点でどこまで、市の

方針として確定しているのか。

<教育部>

今年度の予算で、校舎を取り壊した際にアスベストが発生するかどうか等の調査を実施予定である。壊すことを前提にしているが、天城中学校は、そのまま使用可能又はリノベーションして使えるのであれば、公募により事業者を募集する方向で考えている。中伊豆中学校は老朽化のため、壊すことが大前提となっている。

<市長>

中伊豆中学校と天城中学校の跡地利用を決めたい。中伊豆中学校の跡地については、そこに中伊豆小学校を移転させることを市の事業として確定してほしいと以前から伝えていた。そのために当時、老朽化がかなり進んでいた中伊豆中学校の体育館だけを先に建て替えた。中学校が統合次第、中伊豆中学校は校舎だけを壊し、その跡地に中伊豆小学校を建て替える。そして、小学校とこども園が向かい合う状態になる予定ということで進めてきた。中伊豆小学校の移転を早めに確定させるには、どうすればよいか。

<教育部>

新しい住所に校舎を建てるのが公に確定するのは、学校設置条例で住所を定めれば、その位置に学校を設置することが正式に決まることになる。

<市長>

新中学校を作るときも先に教育委員会で決定している。その後に議会に諮り、学校設置条例の改正をする。中伊豆小学校の住所も、何年何月をもってこの位置にするという条例を提案し、承認されれば確定するということか。

<市長部局>

計画を考えていた当時の児童数であれば、中伊豆中学校が廃校になった後、中伊豆小学校をそこに移転するという流れだったが、時間が経過し、児童の数が当時よりも減っている。今後、小学校の児童数が更に少なくなるのに、また別の場所に新たな建物を建設することが、市民に受け入れられるかどうか。

<市長>

今の中伊豆小学校の場所に校舎と体育館を建て替えるにもお金がかかる。今の建物が未来永劫使えるのであれば話は別であるが。これは中学校統合の時の議論と同じで、当時も今の修善寺中学校の校舎を使えばよいのではないかという意見はあった。今の修善寺中学校を使うと言っても、10年後には建て替えなければならないのに、その時に財源はあるのかという話を今まで散々してきた。市長としては、以前からそのつもりで中伊豆のこども園もあの場所に建て、中学校の体育館も建て替えてきたのに、今の中伊豆小学校の位置に中伊豆小学校をそのまま残すという選択肢は私にはない。だから、中伊豆の将来のまちづくりのためにも、将来の中伊豆小学校の場所を確定したい。中伊豆小学校は無くさない。

<副市長>

教育委員会として、その方向で意思決定するのであれば、中伊豆こども園と中伊豆小学校

に通う子どもの保護者や地元の地区に小学校移転についての説明をする必要があると思う。その説明を行った後でなければ、条例改正の手続には進めない。説明会を行えば、それが市としての意思表示になるので、その手順は踏まないといけないと思う。

<教育長>

移転に伴い校舎が新しくなるということなら保護者は歓迎すると思う。どのタイミングで移転をするのかということは、保護者にしっかり説明をしなければ進められないと思う。

<市長>

市で予算をつけるとか、条例の改正をする等ではなく、まず地元への説明が必要ということであれば、中伊豆小学校の将来の場所に関する説明会を教育委員会にやっていただきたいというのが市長の要望である。将来の中伊豆小学校は今の中伊豆中学校の場所にしたいと思っている。この件については教育委員会の中で改めて議論していただきたい。天城中学校の場合は、跡地に小学校を移転することは出来ないと思っている。天城中学校の跡地利用については、現時点ではどうなっているのか。

<教育部>

天城中学校も校舎の調査を行い、建物を残した状態で他の事業で使っていただける方がいれば、公募により相手を決めて使っていただいても結構である。特に建物を使いたいという事業者がいなかった場合、他に用途があれば、壊して更地にする方法も考えている。まずは公募をしてはどうかという話があったので、その方向で検討はしている。

<市長>

天城中学校の跡地に天城小学校を移転するという考えはない。市の公共事業で使うとか、行政財産で別の目的で使うということもない。跡地利用に関するサウンディング、プロポーザルはどこが担当になるのか。

<市長部局>

基本的に公共施設の総括的な財産管理については、行政財産でも普通財産でも総務部になる。市長からは、今の校舎を残したまま民間が利活用を検討しているのであれば、それも一つの方法だということは指示をいただいている。天城中学校の跡地利用については教育委員会ではなく、総務部の担当になる。サウンディングをして、企業の動向をまずは掴んでいきたい。企業の動向を踏まえた上で条件を加えた公募を行い、もし全く企業から反応がなければ、解体・更地にして公募するという、二者択一の方向で考えている。

<市長>

天城中学校の跡地利用のアイデア募集はなるべく早く進めてほしい。その理由の一つには、可能な限り予算は必要最小限で動かしたいと思っているからである。校舎を残すのか壊すのか、あるいは、武道場と体育館だけは残すのか。エンドユーザーを決めて、最も効果的な予算の使い方をするために何を残してほしいのかを探っておきたい。中学校はあと2年間、校舎を使うが、既に新しい中学校の工事にも着工しているため、できれば早めにアイデア提案の募集をしていただきたいと思う。

<市長部局>

天城中学校については、今後廃校になった時には、一般企業から使用したいという相談もきている。まずはその企業との話を優先的に検討していければと思っている。

<副市長>

私も以前、教育委員会にいたことがあり、小学校の再編に関してはいろいろとやってきた。天城地区の小学校再編の時の話であるが、狩野小学校の場所へ統合し、月ヶ瀬地区、湯ヶ島地区から小学校がなくなるという話を当時、進めていた。子どもたちはまだ、それぞれの小学校で学んでいる最中なのに廃校後の施設の在り方についての協議を進めるのはいかななものかという意見があった。中伊豆地区の小学校再編の時も同様の意見があったと記憶している。しかし、結果的に中伊豆地区の場合、大東小学校は企業が借りてくれたが、八岳小学校は使い道がなく、解体する予定である。あと2年間は現在の中学校の校舎で学ぶが、教育委員からの意見が特になければ、何かしら動いていかなければ、建物も確実に傷んでいく。令和7年になってから初めて動き出すとなると、そこから2、3年間は何も活用できないことになるので、ますます建物は傷んでいくと思う。子どもも保護者も2年後には新中学校へ通うことは承知しているので、閉校後の校舎の利用については早めに動いた方が良く思う。

<市長>

廃校後は資産経営課の管轄になるということか。生徒の気持ちはもちろん大切にしますが、今後の使い方についても、なるべく早く意見聴取できる形にしてほしい。

<教育長>

教育委員会では、それぞれの中学校の終わりに向けて、学校現場において不便がないようにという認識で業務を行っている。2年後にはもう使わないからという理由で雨漏り等の校舎の傷んだところを放っておくことはせず、必ず直す方向でいる。そのような姿勢を閉校まで続けていけば、子供たちや保護者にも理解をしてもらえらえると思っている。その点だけは、落ち度なくやっていきたい。あと2年間、協力をお願いしたい。

<市長>

私から確認したいことは以上である。他に皆さんから、議題の中で意見等はあるか。

<教育委員>

中伊豆小学校は耐震に問題があるから建て直すのではなく、魅力ある小学校にするために立て直すのか。

<市長>

小学校も中学校も耐用年数が過ぎている。どこかのタイミングで小学校は立て直さなければならぬ。中伊豆小学校は今の場所で建て替えることもできるが、どうせ建て替えるのであれば、現在の中伊豆中学校の体育館は既に新しく建て替えてあるので、こども園と隣接させられる中伊豆中学校の場所に建て替えたいということである。当然、豪華なものは建てられないが。

<教育委員>

それでも新しくなれば、子どもや保護者はうれしいと思う。

<市長>

長泉町では短期間の工期でプレハブの小学校を建てたようである。長泉町の例も参考にしたい。

<教育委員>

図書館のあり方について議題になっていたが、土肥地区に関して言うと、お年寄りの集まりや健康づくりの事業などで使うことが多いのは旧土肥小学校の「土肥集学校」である。土肥図書館がある土肥支所の4階まで上がらずに済むよう、移動図書館とまでは言わないが、移動書架のような形で土肥集学校で本を読むことができれば良いなと思った。

<市長>

土肥集学校へ図書館を移したらどうか。

<教育部>

土肥支所内の土肥公民館となっている会議室などの管理も土肥図書館の職員がやっている。

<市長>

土肥集学校に土肥図書館を移し、土肥集学校に図書館の管理と一緒にそれらの施設の管理もしてもらうのも案だと思う。土肥小中一貫校と土肥集学校の両方に図書エリアがあっても良いと思う。

<教育委員>

中学校の部活については、教員の負担を減らすために、部活の指導を地域の人をお願いをするということが現在、調整されていると思う。教員と地域の人とのコミュニケーション不足により、結果的に生徒たちへの負担になる、ということがないように進めてほしい。

<市長>

今後は、確実に今までの根性を鍛えるような部活動は減っていくと思っている。大会運営者が3時間以上の練習は認めないというところもあるようだ。それから、土日はスポーツをやりたい、普段は美術をやりたいなど、文化部も運動部も両方やる子や2種目の運動をやる子というような方向になってくと思う。そうではなかった今までの日本の学校が異常だった。他の国ではそれが普通である。いろんな選択肢があるような部活動であってほしい。

<教育委員>

今話を聞いて、新中学校では色々な部活ができて、そのような選択肢が増えると良いと思った。

<市長>

移住してきた人の声を集めた「いずぐらし」の記事を読んだが、「伊豆市は子育てに最適」と外から来てくれた人が皆、言ってくれている。先日、伊豆市の人口の記事が新聞に掲載された。令和4年度の転出者の社会動態プラス9人は外国人の要素だが、転出者が減っている

ことは確かである。マイナス 200 人から何とかゼロまで持ってきた。しっかりと対策を進めれば、日本人だけでもプラスになると確信している。ただし、伊豆市の全ての地区の人口を増やすことは難しいため、小学校の周りで集中的に移住者が増えるよう政策を進め、田舎暮らしが好きな人は、小学校から少し離れた山の中や川のそばを選ぶかもしれないが、政策的にはやはり、小学校を守る方向でもう少し頑張りたいと思っている。

<教育委員>

昔から地元に住んでいる人は伊豆市の魅力を忘れていく気がする。子どもに対して伊豆市のことを好きになれと言っても、大人は伊豆市の魅力に気付いているのか。大人が伊豆市の魅力にもっと目を向けるべきだと思う。

<市長>

他に皆さんから、意見等はあるか。特になければ、総合教育会議の議事は終了とする。

4 閉 会

<教育部>

本日、市長からいただいた課題については、解決に向けてしっかりと取り組んでいきたい。以上で令和 5 年度第 1 回の総合教育会議を閉会とする。